

ピーターラビットの世界

～おはなしの魅力とその背景～

講師：河野芳英氏（大東文化大学教授）

絵本「ピーターラビットシリーズ」は、1902年の初版刊行から120年以上が経つ現在も世界中の人々に愛され続けています。まだ読んでいないという方も、大好きで絵本も持っているよという方も、ピーターラビットの世界をもっとよく知るための資料をご紹介します。

◆『ピーターラビットのおはなし』（「絵本ピーターラビット」シリーズ 全23巻）

ビアトリス・ポター／作・絵 川上未映子／訳 早川書房

2002年の出版100周年を機に、挿絵を初版の色彩に近づけるなど、作者の意図を忠実に再現することをめざした改訂版が出版されました。日本では2022年から、これをもとにした新訳版シリーズが刊行中です。小説家・詩人の川上未映子氏が翻訳、講師の河野先生が監修をされています。『ピーターラビットのおはなし』では挿絵6点が復元・追加され、ピーターのおとうさんの「にくのパイ」の絵(!)も復活していますよ。

◆『ピーターラビットのおはなし』（「ピーターラビットの絵本」シリーズ 全24巻）

ビアトリス・ポター／さく・え いしいもこ／やく 福音館書店

日本では、1971年に初めて正式な翻訳版が福音館書店から出版され、長年親しまれてきました。2019年に刊行された新装版改訂版が最新で、ポターの死後に残されたスケッチより刊行された『ずるいねこのおはなし』を加えた全24巻のシリーズとなっています。早川書房版と福音館書店版の両方を読み比べてみるのも楽しいかもしれません。

◆『The Tale of Peter Rabbit』by Beatrix Potter Frederick Warne

横浜市立図書館では、原著も所蔵しています。蔵書検索ページの詳細検索から、著者に「Beatrix Potter」、出版者に「Frederick Warne」と入力して検索してください。

*検索結果には、一部シリーズ以外の資料も表示されるのでご注意ください。

◆『英語で楽しむピーターラビットの世界』Book 1、Book 2

Beatrix Potter／英文・絵 木谷朋子／訳・解説 河野芳英／監修 ジャパンタイムズ 2012

Book 1: 978-4-7890-1488-5、Book 2: 978-4-7890-1489-2

原著に挑戦したいけど難しそうだなという方へ、辞書なしでも読めるよう、語注、和訳、解説を付けたのが本書です。CD付なので耳から楽しむこともできます。Book 1、Book 2それぞれ5作品を収録しています。

◆『ピーターラビットの世界へ ビアトリス・ポターのすべて』

河野芳英／著 河出書房新社 2016 978-4-309-20713-1

講師・河野先生によるビアトリス・ポターの研究書です。ポターの生涯や物語誕生秘話、絵本の日本での足跡など、ポターとピーターラビットの全てがつまっています。もっと詳しく知りたい方は巻末の参考文献もどうぞ。

◆『ピーターラビットのすべて ビアトリクス・ポターと英国を旅する』

辻丸純一／文・写真 河野芳英／監修 小学館 2016 978-4-09-388507-2

「ピーターラビットシリーズ」の舞台とゆかりのあるイギリス各地を、おはなしの挿絵、スケッチ、風景写真など約 350 点を用いて紹介しています。眺めるだけでも楽しい一冊です。

◆『Happy birthday! Peter Rabbit 出版 120 周年ピーターラビット展』

ビアトリクス・ポター／〔画〕 河野芳英／監修 世田谷美術館、朝日新聞社、東映／編集
朝日新聞社、東映 [2022]

2022 年に開催された展覧会の図録です。『ピーターラビットのおはなし』の原画はもちろん、絵本のもとになった絵手紙やスケッチ、私家版や草稿本、作者自身が監修したグッズまで、貴重な資料が多数掲載されています。

◆『ビアトリクス・ポター物語 ピーターラビットと自然を守った人』

キャティ・ウーリー／文 ジニー・スー／絵 中井はるの／訳 河野芳英／監修 化学同人 2023
978-4-7598-2309-7

ポターの生涯を描いた伝記絵本で、写真やスケッチなども多く掲載されています。対象は小学校中学年くらいから。大人の方にもおすすめです。

◆『連続講座〈絵本の愉しみ〉』2、3

吉田新一／編著 朝倉書店 2018 2:978-4-254-68512-1、3:978-4-254-68513-8

アメリカ、イギリス、日本の絵本を解説した全4巻のシリーズで、2、3巻が『イギリスの絵本』です。2巻第6章(p.95-182)がポターの作品について、3巻第5章(p.94-173)が作家としてのポターについて書かれており、原著の改訂の経緯など、専門的な話題も取り上げられています。

◆「出版 120 周年 まだ"知らない"がいっぱい! ピーターラビット」

(「MOE」2022 年 4 月号 白泉社)p.6-35

もっと手軽に知りたいという方は、雑誌の特集はいかがでしょうか。約 30 ページに、ピーターラビットの魅力がぎゅっと凝縮されています。新訳版の翻訳を手がける川上未映子氏のインタビューも掲載されています。

コラム 世界初翻訳は日本!?

「ピーターラビットシリーズ」が日本で正式に出版されたのは 1971 年ですが、それ以前にも『ピーターラビット』など様々なタイトルで紹介されてきました。

日本で初めて紹介された「ピーターラビットのおはなし」は、「悪戯な小兎」というタイトルで「日本農業雑誌」第2巻第3号(1906.11)に掲載されました。翌月の第4号には「悪戯な小兎—後日譚」として「ベンジャミンバニーのおはなし」も掲載されています。

「日本農業雑誌」は、国立国会図書館デジタルコレクションの送信サービス(個人送信・図書館送信)で閲覧できます。有効な横浜市立図書館カードをお持ちの方は、市立図書館全館(広域利用者の方は中央図書館のみ)で利用できますので、興味のある方は図書館のカウンターでお声がけください。

◆「日本農業雑誌」2(3) p.59-64 日本農業社 1906.11 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1551476>

◆「日本農業雑誌」2(4) p.57-60 日本農業社 1906.12 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1551477>

参考:『ピーターラビットの世界へ』(河野芳英／著 河出書房新社 2016)p.105-106

「ピーターラビット」翻訳 日本語版が最古 明治 39 年、英で出版4年後

(「読売新聞」2007 年 5 月 9 日 夕刊)p.1